

除する必要はありません。逆に耳をいじりすぎると、新陳代謝が活発になり、耳垢がたまりやすくなってしまうこともあります。

また、耳は軟骨部と骨部に分かれており、軟骨部の外耳道には、毛や耳垢腺、皮脂腺があります。骨部の外耳道は、とても薄い皮膚一枚が骨を覆っているだけなので、少し触れただけでも痛みます。耳の中は非常に繊細なので、耳の入り口から1cmくらいのところを、綿棒などで軽く掃除する程度にしましょう。お風呂上がりなどに行くと耳垢がやわらかくなっているのでよくとれます。乾性の耳垢の場合は、ベビーオイルなどを綿棒に少しつけるとよいでしょう。子どもが自分で耳掃除を行う場合、綿棒を使うと強くこすりすぎてしまったり、耳の奥まで傷つけてしまうことがあるので、タオルで耳の入り口を軽く拭くようにしましょう。綿棒を使う場合は、大人が掃除してあげるとよいでしょう。

耳の病気

●外耳炎

耳を触りすぎて起こりやすいのが外耳炎です。かゆみや分泌物が出て痛みを伴うことがあります。外耳道が湿疹状になるとじゅくじゅくしたり、耳垢が増えたりします。

●耳せつ●

外耳炎がさらに悪化して皮脂腺や耳垢腺が感染を起こすと、「耳せつ」とよばれるおで

きができることがあります。不潔な指先で耳を触ったり、耳を掃除したときに傷をつけてしまうと、細菌が侵入して起こります。

●外耳道真菌症●

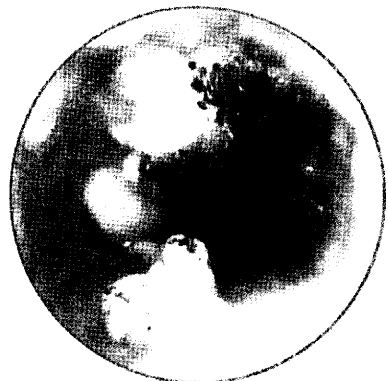
外耳道が湿疹状になると、じゅくじゅくしたり、耳垢が増えたりして、カビが生える「外耳道真菌症」になることがあります。耳鼻咽喉科での治療は、まず耳垢やカビをきれいにとってから、抗生物質を含んだステロイド軟膏や点耳薬を用いたり、抗真菌剤を塗ります。それを何度か繰り返すと、大抵の外耳炎や外耳道真菌症はよくなります。慢性湿疹の状態になった場合、治療に何か月もかかります。かゆみの防止に、抗ヒスタミン剤、抗アレルギー薬の内服、軟膏を使い、できるだけ耳をいじらないようにしましょう。

●耳垢栓塞●

耳垢が外耳道を完全にふさいでしまった状態です。難聴や耳閉塞感、耳鳴りが起きます。外耳道に水が入ったときに耳垢がふやけて外耳道を圧迫し、痛みやめまいが起こることもあります。外耳炎や、乾性の耳垢の人、高齢者などの新陳代謝に問題がある人は耳垢栓塞になりやすいと考えられています。

耳鼻咽喉科では耳垢の除去も行っています。耳垢は耳の病気の原因にもなるため、保険診療の対象となっています。気になる人は一度耳鼻咽喉科へ足を運んではいかがでしょうか。

外耳道真菌症



耳の皮膚や耳垢にカビが生えています

外耳道の構造

